

福岡城天守台調査開始のお知らせ

福岡市では、国史跡福岡城跡を適切に保存し、歴史的価値を次世代に継承するため、石垣や建造物などの保存・整備を進めています。

今年度は、「福岡城天守台発掘調査」など、福岡城天守台・本丸の文化財調査を行ないます。発掘調査に先立ち、天守台・本丸の測量調査を開始いたしますので、当日の取材よろしくをお願いいたします。

概要

日時：令和7年4月30日（水）9時30分～10時00分（予定）

※雨天の場合は、事業概要のみ説明いたします。

集合場所：福岡城本丸天守台前（福岡市中央区城内）

内容：9:30～9:45 事業概要の説明
9:45～10:00 測量作業（ドローン）

【場所地図】



▲ 天守台と本丸



天守台前

経済観光文化局 文化財活用部 史跡整備活用課
担当：中村・藏富士
TEL：092-711-4470（内線 4470）
E-Mail：shiseki.EPB@city.fukuoka.lg.jp

≪ 参 考 資 料 ≫

福岡城について

【国史跡 福岡城跡とは】

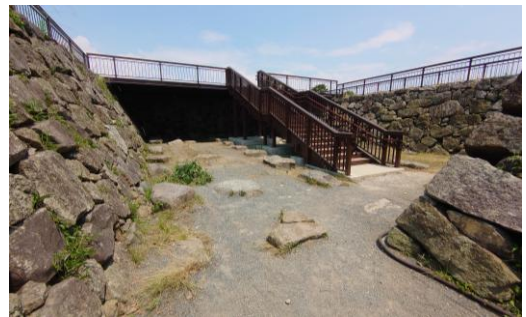
福岡城は初代藩主黒田長政とその父黒田如水（官兵衛）により、1601（慶長 6）年～1607（慶長 12）年にかけて築城された平山城です。城内は本丸・二ノ丸・三ノ丸で構成されています。城内面積は約 41 万㎡、濠を含めた総面積は約 110 万㎡で、九州の城の中でも有数の規模です。

城内には 47 の櫓があったとされ、その他に本丸御殿など多くの建造物がありましたが、明治以降ほとんどの建物が解体・払下げ等で失われ、城内に現存する建物は多聞櫓（国指定重要文化財）などごく一部です。1957（昭和 32）年に国史跡指定を受けています。

【天守台について】

天守台とは、天守の土台となる石垣のことです。福岡城の天守台（大天守台）は、上面の大きさが東西約 25m、南北約 22m で、内部は穴蔵となっており礎石が 40 個残っています。

福岡城の石垣で最初に築造されたのが、この天守台です。この石垣は主に玄武岩や礫岩を使用し、加工を施していない自然石を積み上げています。この積み方は、野面（のづら）積みと呼びます。



▲天守台内の礎石

測量調査について

【写真測量（天守台内測量）】

天守台内測量では、調査区に設置した標定点とドローンで撮影した写真を用いて、ひずみの無い画像（オルソ画像）を作成します。次にこの画像を下絵として、天守台内の平面図を製作します。発掘調査はこの平面図を元に計画、そして実施します。

【UAV レーザ測量（福岡城本丸 3 次元測量）】

今回の調査では、本丸全体の 3 次元測量を初めて実施します。3 次元測量とは、UAV（無人航空機）やレーザースキャナなどを使用し、地形などの立体的な位置情報を計測する方法です。対象物の表面から点群データを取得して、そのデータをコンピュータ処理することで、3 次元モデルを生成することができます。今回の測量ではドローンを使用します。



▲UAV（本丸 3 次元測量）